



- P2 特集 作家が見た風景
P3 スタッフのセクション！
「落語の国からのぞいてみれば」
P4 人物ブックマーク 「原田左之助」
P4 視聴覚資料の森 CD「ニッポンのロック・ギタリスト」
P4 江戸川まいにんぐ 「鶴岡市とのおいしい関係」

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館

住所：〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19

篠崎文化プラザ内

TEL: 03-3670-9102

<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library>

館長の紙BLOG

2009年9月1日

プロの魂

図書館には視聴覚資料、つまりCDやDVDもあります。新しく購入するCDをどう選ぶかは選定担当スタッフの腕と耳の見せどころになります。

音楽動向へのアンテナの感度を保つためにわたしは「CDジャーナル」という雑誌を読んでいて、とりわけそれに連載中の「山下洋輔の文字化け日記」を読むのを月イチの楽しみにしています。

フリージャズピアノの世界を切り拓く血気の若いモンだった頃の氏なら、「オレの連載がすべて。あとの記事は包み紙」と言い放つたでしょうが、紫綬褒章までいただいで「一介のバンドマン」（自称）として盛名ここにきわまった今日、さすがにそこまでは断言しません。

さて、この日記の連載八年分をまとめたものが今回晴れて文庫本として出版され、氏の音楽と文筆の三十年来のファンとしてすぐ飛びつきました。

前回のワールドカップの年のある日、サッカーのニュースを聞いて氏は日記にこうしたためます。

「ピアノストにとってピアノはサッカーのグラウンドと同じだ。どんなコンディションでもすぐ状況をつかみ、最高のパフォーマンスを展開してゴールを決める、こういうことである」

慧眼とはこのことか。さすが紫綬……あ、これはもういいか。ともかくわたしは、はた、と膝を打ち、ピアノストを館長、ピアノを図書館、ゴールを図書館サービス、と思わず読み替えて深く深くうなずいたのであります。

去る8月22日、篠崎文化プラザで「チャターとフルートのコンサート」を開催しました。演奏はドイツ人の旦那様と篠崎出身の奥様のめでたい組み合わせの夫婦デュオ。

会場は講義室につき、コンサート仕様ではないので音響は考慮されていない旨演奏者に申し上げると、

「与えられた設備と環境でベストを尽くすのが音楽家です」とありがたいご返事。またまた音楽家のプロ魂に頭が下がりました。いや、このご夫婦こそ実るほど頭を垂れる稲穂のおもむきがあり、ゲルマン民族に稲穂の精神とはまさにグローバル。

講義室コンサートが宮廷の楽の間もかくやの至福の空間になったことは言うまでもありませんでした。

イベント情報 9・10月

涼風の江戸川の朗読会

9月12日（土）

14:00～15:30（開場：13:30）

語り：声の贈り物

朗読作品：三年目（藤沢周平 作）ほか

場所：篠崎文化プラザ講義室

定員：50名（当日受付、先着順）

どなたでも参加できます。

入場料：無料

お問合せ：篠崎図書館（03-3670-9102）まで

第7回

大人のための映画会／ライブラシネマ篠崎

「禁じられた遊び」

〈Jeux interdits〉（1952年 仏作品）

監督：ルネ・クレマン

主演：ブリジット・フォッセー ジョルジュ・ブージュリー

10月17日（土） 14:00～16:00（開場：13:30）

場所：篠崎文化プラザ講義室

定員：70名（当日受付、先着順）

どなたでも参加できます。

入場料：無料

お問合せ：篠崎図書館（03-3670-9102）まで

作家が見た風景

紀行文、旅行記を読む

「そうだ、全くぼくは一個の旅人、地上の巡礼に過ぎない。君たちはいったいそれ以上のものか」と作家ゲーテは『若きヴェルテルの悩み』に書き、旅行記『イタリア紀行』をものにしていきます。そうです、私たちは旅人なのです。日本でも、多くの作家が旅に出かけ、旅行記を残してきました。それらの中から、いくつか選んだものをご紹介します。さて、本を読んだあとは…？！



②「津軽」太宰治著

岩波書店ほか 請求記号:BFタ 所蔵館:篠崎ほか

自分のルーツを見つける旅

「ね、なぜ旅に出るの?」「苦しいからさ」

こんな会話から始まる、太宰の津軽旅行記。読むと鬱々してくるようにも思われる出だしですが、さにあらず。太宰は、「津軽人とは、どんなものであったか、それを見極めたくて」旅に出ます。そして、行く先々で旧友、知人らと逢いながら旅を進めていき、クライマックスは、太宰が「自分の母」だと思っている子守のたけと三十年ぶりにはたす再会の場面。抑制された筆で書かれながら、ツボをおさえた文章となっており、人間っていいなあ、としみじみ感じさせてくれます。「人間失格」のイメージとは違った、明るくユーモアのある名作です。

①「北海道の旅」

串田孫一著

平凡社 請求記号:B915ク

所蔵館:小岩

日記と手紙で綴られた北海道の旅。著者自身のスケッチも収録。

④「越の道」 水上勉著

河出書房新社 請求記号:915.7ミほか

所蔵館:中央ほか

越前岬から奥能登、親不知、高田、村上を経て佐渡までを旅する。

③「乗る旅・読む旅」 宮脇俊三著

JTB 請求記号:290ミほか

所蔵館:篠崎ほか

旅心を刺激する鉄道紀行

宮脇俊三は、「鉄道紀行文学」という文芸ジャンルを確立し、「鉄道紀行」の先駆けとなった作家といえます。その文章は魅力的で、鉄道ファン(マニア)でなくとも一度は行ってみたい、乗ってみたいと“旅心”を刺激されます。JRが国鉄だった昭和の時代に書かれているため、実際には、鉄道事情はずいぶん変わっていて、廃線等でもう体験することができない線もたくさんあります。例えば、色々な著書に登場する奥羽本線の難所の福島―米沢間の雪景色や板谷峠のスイッチバック、峠駅の力餅売りは、今は見ることはできません。それでもページを開くと、そこに車窓の風景が広がり、鉄道旅行が体感できます。「読む旅」のはじまりです。

⑤「平成お徒歩日記」 宮部みゆき著

新潮社 請求記号:B915ミほか 所蔵館:篠崎ほか

宮部みゆきの歴史珍道中

推理作家であり、時代小説家でもある宮部みゆきが、新潮社出版部のメンバーと結成した「お徒歩隊」と一緒に練り歩く、歴史実体験紀行エッセイです。「お徒歩隊」が巡るのは、忠臣蔵の赤穂浪士のたどったコース、市中引廻しのコース、はたまた流刑の地である八丈島など、時代劇でおなじみの舞台。江戸の人々が感じていた「時間と距離感」を体感しながら、笑いあり涙ありの珍道中を練り広げます。江戸歴史散歩のガイドブックとしても使える1冊です。

場所	書名	著者	出版社	請求記号	所蔵館	内容
⑥	大和路・信濃路	堀 辰雄	新潮社	B915ホ	西葛西	文豪が、旅の感動を素直に綴る。
⑦	難波利三私の大阪散歩	難波利三	山と溪谷社	291やほか	小松川ほか	暮らしのにおいあふれる浪花の表情を、万歩計を伴って歩いて紹介。
⑧	四国八十八ヶ所感情巡礼	車谷長吉	文藝春秋	915ク	篠崎ほか	「人をさんざん傷つけて来た」作家が、四国巡礼の旅に。
⑨	島の時間	赤瀬川原平	平凡社	B915.7アほか	中央ほか	中古カメラを手に、九州の島々を旅する。
⑨	南九州温泉めぐりと いろいろ体験	銀色夏生	幻冬舎	B915キ	小岩	近所の気軽な立ち寄り温泉から秘湯まで、つらつらと記録した体験エッセイ。
⑩	なんくるなく、ない	よしもとばなな	新潮社	B915ヨほか	篠崎ほか	沖縄に恋した作者が旅仲間と沖縄旅行に。
関東	荒川サイクリング マップ	自転車生活ブックス編集部編	ロコモーションパブリッシング	291ア	篠崎	荒川の上流・秩父鉄道三峰口駅から河口まで、荒川沿いを自転車で走る5ルートを紹介。
全国	定本 阿房列車	内田百閒	六興出版	V915.6ウ	中央	借金まみれなのに一等車に乗り、妙に現実ばなれた旅はふわふわと続く。
全国	「どこへも行かない」旅	林 望	光文社	915ハほか	篠崎ほか	あくせくと何かをする旅ではなくてのんびりと「何もしない旅」の過ごし方を紹介。
全国	ちいさい旅 みつけた	俵 万智	集英社	J91タ	葛西	北海道から沖縄まで、美しい写真とエッセイ、短歌で表現した旅行記。
全国	自由に至る旅	花村萬月	集英社	915ハほか	篠崎ほか	オートバイを愛し、野宿旅を続けている著者が、その思想と実践について語る。

作者は私?! 旅の本

旅の本を自分で作ってみませんか？ ただ、観光名所を練り歩いたり、美味しいものを食べたりするだけでなく、旅の出来事や感動を文章におこし、それを本にまとめるのです。ただ、いきなり書けといわれても難しい…。そこで、事前に「**上手な旅行記の書き方**」(岳真也著 中央所蔵)、「**たとえば旅の文学はこんなふうにして書く**」(関朝之著 清新町所蔵)などで予習するのもいいでしょう。それから、旅行記を印刷するための参考書として「**ワードで自分だけの本**

をつくってみる」(大橋悦夫著 篠崎ほか所蔵)もあります。さて、予習がすんだら旅行に出るわけですが、ここで一工夫をしましょう。旅先で写真を撮ったり、絵を描いたり、俳句や短歌、詩を読んだりしてみるのです。それらを文章の間にに入れていけば、より充実した旅行記になること間違いなしです。

このようにして、旅に出かけるごとに自分の著作が一冊一冊と増えていくわけです。いつしか書棚に「旅の本」がいっぱいになるかもしれませんよ。

スタッフのセレクション! 第8回

篠崎図書館で働くスタッフがほとんど個人的趣味で選んだおすすめ本やCDを紹介します。今号は、Sさんが選んだ落語に関する本です。

堀井憲一郎「落語の国からのぞいてみれば」

講談社 請求記号:799ホほか 所蔵館:篠崎ほか

CDで落語を聴くようになって1年。もっと落語について知りたいなという時にこの本と出会いました。時刻の概念、ゼニとカネの違い、歩く速度等、落語を聴くのに役立つ知識や、CD化された演目情報が満載です。でもそれだけではないんです。落語を通して、江戸の暮らしぶりや人々の心のありようを語っています。

江戸の暮しで一貫しているのは、「個人」よりも「社会」が優先するということ。たとえば第一章には、年齢を数え年で表したのは、その人の誕生日よりも、この社会に参加して足かけ何年になるのが大事だったから、と書いてあります。

「死ぬ者、貧乏」という考え方が出てきます。死んだら損、生きてる方が勝ち、ただ、いずれ自分も死んでしまうんだという気持ちが入っている。あと先になるだけだという諦念。第三章には、奥さんを亡くした人に親戚が「そりゃ、お菊のこと

をおもう気持ちはわかるよ。わかるけどなあ、死ぬ者貧乏と言って、しょうがないんだよ。かわいそうだけど、死んだ者のことをいつまでも、くよくよおもってたって始まらないだろ。それより生きてる者のことを考えなさい。自分のこと、家のこと、奉公人のことを考えなさい」と、再婚を勧める唄が紹介されます。これも、亡くなった人を悼む気持ちよりも共同体を優先させる社会のありようです。底抜けに明るく演じられる長屋の人々の暮らしにも、そんな背景があったのかもしれない。

落語は、江戸時代の人々の生活を生き生きと伝えてくれています。堀井憲一郎は落語を「語り継がれる遺跡」のようだと言っています。「でも落語は遺跡ではなくて、いまでもエンタテインメントなんだな。いまこの瞬間もどこかで人を笑わせている。そのへんがすごい」とも書いています。



人物ブックマークとは歴史上の人物を紹介し、一緒に関連本を紹介するコーナーです。

第五葉 原田左之助

幕末の頃に活躍した警備隊のひとつに新選組がある。原田左之助は、近藤勇や土方歳三ほど有名ではないが、新選組の関わった事件の多くにその名を見ることのできる人物である。

左之助は美男で頭も良かったが、二言目には「斬れ、斬れ」と怒鳴る、短気で粗暴な一面もあったといわれている。それを象徴するエピソードが、子母沢寛の「新選組物語」で伝えている切腹未遂事件だ。

伊予松山で武家の若党だった頃、武士と喧嘩をした左之助は、「腹切る作法も知らぬ下司下

郎」と罵られたのを憤慨し、「それではやってみせてやる」と言って、その場で腹を切ってみせたのだ。傷は縫合されたが、これ以降、死損ねの左之助などとあだ名されたという。

そんな左之助であるが、近藤や土方の信頼は厚く、新選組で殿軍にあたる十番隊組長を歴任。愛妻家でもあった。慶応四年、左之助は上野戦争に参戦し死亡するが、中国へ渡り馬賊となったという生存説も存在する。

左之助の足取りには未だ謎も多い。何とも夢のある人物ではないか。

原田左之助関連本

「新選組物語」 子母沢寛 中央公論社 請求記号：BFシ 所蔵館：篠崎
新選組三部作の一つ。原田左之助の切腹未遂事件のほか、隊士たちの逸話を多数掲載。



視聴覚資料の森

ロックバンドの花形である“ギタリスト”。彼らの個性がバンドに与える影響は、他のパートのそれよりも大きいと思います。しかし最近の日本では、ギター・ソロで聴衆を魅了する人が非常に稀になってしまいました。それは80年代頃から、ヒットチャートにロックバンドの名が軒を連ねるようになって以降、“ロックの形骸化”に

よって、ギタリストたちから個性や技術が失われてしまったからではないでしょうか。

今回紹介するCDは、70年代の日本で活躍したギタリストたちのソロワークを集めたコンピレーションアルバムです。現在、ポップス界の陰の重鎮である鈴木茂（はっぴいえんど）、当時海外で成功した数少ない日本人の一人である竹田和夫（クリエ

CD「ニッポンのロック・ギタリスト」・「ニッポンのロック・ギタリスト達」

請求記号：K2/ニ 所蔵館：篠崎ほか

イション）、近年バンドを再始動させた森園勝敏（四人囃子）など、60～70年代に欧米に出現した“それ”をリアルタイムで体感し、吸収し、日本なりに昇華させた彼らの活動は、ギターキッズだけでなく、洋楽しか知らない人にも必聴です。また、坂本龍一をはじめ、今みると豪華な顔ぶれがバックを支えているのも聴きどころです。

江戸川まいにんぐ 発掘 第8回 鶴岡市とのおいしい関係

秋になると、10月初旬の「江戸川区民まつり」をはじめとして区内各地でお祭があります。どのお祭りでも友好都市鶴岡の特産品販売ブースの人気は高く、庄内平野の田園、出羽の深い山々、荒波寄せる日本海、この三位一体の地勢が生み出す特産物を求める区民たちでブースは大にぎわいになります。

秋の季節のおすすめは、「庄内米はえぬき」、「吟醸酒」、「温海（あつみ）のかぶ漬」、「民田（みんでん）ナスのからし漬」、「イカ一夜干し」、など、あげていくとキリがありません。大鍋でふるまわれる庄内豚入りの「芋煮」は早いもの勝ち。冬の「寒鰯まつり」の熱い「寒鰯のどんがら汁」は陶酔の味です。

広域合併によって市域が広がり、特産物もさらに多様になりました。

「区内路上観察」で遭遇した、けっこうレアで、それでいてけっこう役立ちそう、な情報を毎回お届けしています。

鶴岡と江戸川区の縁は戦時中の学童疎開がとりもっています。庄内地方といえど食料不足で悩むなか、精一杯用意していただいた土地の米や野菜で疎開学童たちが戦時を生き抜いたことを忘れてはなりません。

